



## 「神の愛－希望の源」 (要旨) 2022.11.20

ユダの手紙 20,21節 説教者 原田憲夫

説教後賛美：21讃美歌456番 今週の聖句：ユダ 21節

主イエス・キリストの十字架と復活から40~50年の時が流れただろうか。けれども決して失ってはならない「純粋な信仰」を守り伝えようとするユダの熱い思いが、この手紙の中に込められている(3~4節)。

### 【1】神の愛－私たちの魂の安息の場所！

「信仰の上に自分自身を築き上げなさい」との勧め。→コリ12:7。

「純粋な信仰」を失くしては、「自分自身を見失う」からである。

そして「神の愛のうちに自分自身を保ち」との勧め。

さらに「永遠のいのちに導く、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい」との勧め。

この神の愛は、母の愛にもまさって強く大きい。→イザヤ49:15,16。

▷神の愛、それは私たちの究極の安心、魂の安息の場所なのだ！

### 【2】神の愛－私たちの希望の源！

私たち現代社会は「時間」や「空間」を切りつめてきたことで、「心のゆとり」を失っているのではないか。←キツネが「星の王子さま」に語った言葉；「あんたが、あんたのバラの花をととてもたいせつに思っているのはね、そのバラの花のために、“ひまつぶし”したからだよ」

→この話は「神の犠牲愛」に通じる。愛に溢れる神は、ご自分に背を向け、自分勝手な道に進み、真っ暗な中を彷徨う私たち人間を憐れみ、罪の無い、聖い救い主－キリストをこの世に送られた。

キリストは自ら進んで私たち人間の罪すべてを引き受け、十字架の上でご自分のいのちと引き換えに私たちの罪を贖い、私たちを癒し、清く正しく生きるようにと、「救いの道」を開かれた。そして三日目によみがえり、その救いが確かであることを示された。この「神の犠牲愛」の結果、ただキリストを信じる者は「永遠の救い」を得ることができる。

▷神の愛、それは私たちの希望の源なのだ！

### 【招き】

キリストの言葉；「父(天の神)がわたしを愛されたように、わたしもあなたを愛しました。わたしの愛にとどまりなさい」(ヨハネ15:9)。

不安な時代、試練が続く今だからこそ、互いに不信感を抱くのではなく、また対立し合うのではなく、十字架のキリスト－救い主を心に迎え、全ての重荷をおろし、その心、魂に永遠の安息をいただこう！

堅く信仰に立ち、神の愛の中に自分自身を委ね、永遠のいのちに導く、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望もう！

(祈り)

